

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

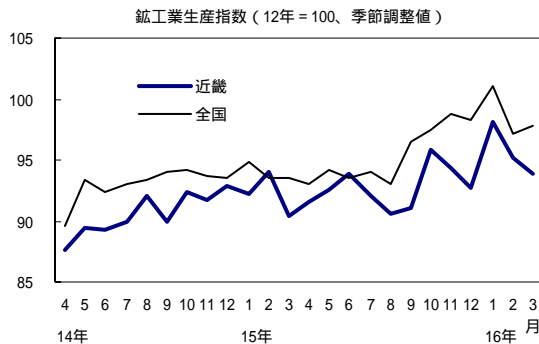
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 2 月)	今回 (平成 16 年 5 月)	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

一般機械は、アジア特に中国向けのガスタービンや半導体製造装置、フラットパネル・ディスプレイ製造装置などが好調であり、2期連続で増加している。化学は、医薬品や化粧品が寄与し、2期連続で増加している。電気機械は、1月にエアコンなどが増加したが2月には減少に転じており、リチウムイオン蓄電池は増勢となっているものの、全品目で期を通してみるとおおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、酒類や清涼飲料が寄与し、2期連続で増加している。電子部品・デバイス、パソコン向けの固定コンデンサやアクティブ型液晶素子が、伸びは鈍化しているものの増加を続けており、4期連続の増加となっている。



(備考) 平成 16 年 3 月の近畿は速報値。

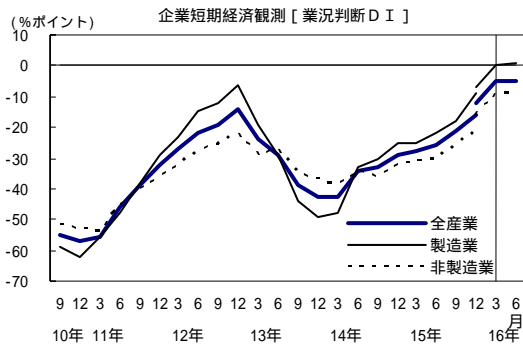
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
一般機械	15.0	15.4	4.8	3.1	2.4		
化学	12.8	4.7	6.3	5.0	1.8		
電気機械	10.1	2.1	0.4	1.2	7.8		
食料品・たばこ	8.1	0.8	4.8	3.1	0.9		
電子部品・デバイス	7.9	2.2	5.6	0.7	95.0		
鉱工業	100.0	3.4	1.5	0.4	10.2		

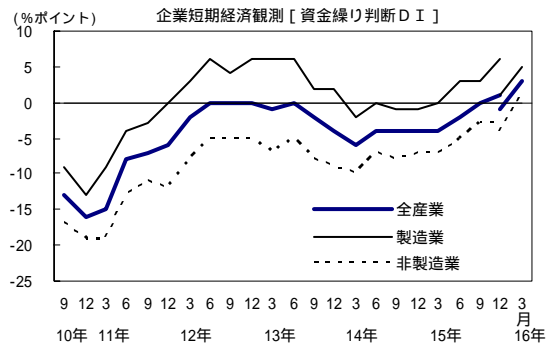
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

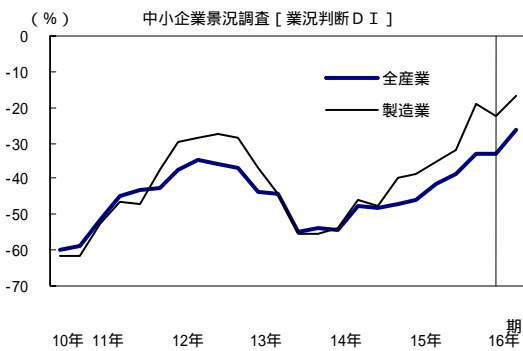
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「関西国際空港での輸入貨物の配達が、昨年は少し落ちていたが、今年は昨年を大幅に上回っている (輸送業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

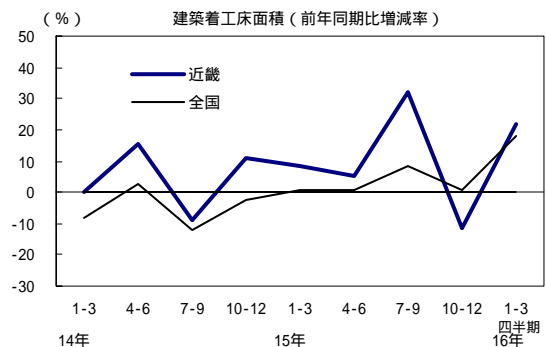
企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	4.8(0.8)	2.3
製造業	15.4(0.0)	5.1
非製造業	2.1(1.4)	0.1

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

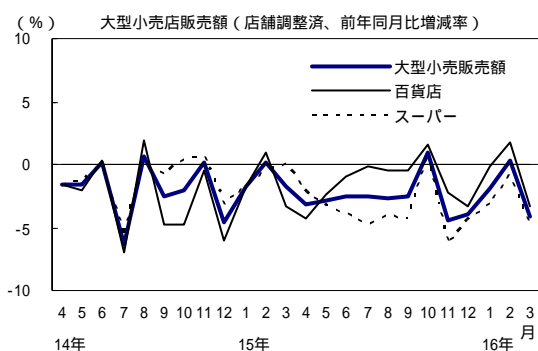
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月にはクリアランスセールの効果もあり、減少幅は縮小した。2月は春物商品が好調であった婦人・子供服・洋品、バレンタイン関連商品などが好調であった飲食料品が前年を上回り、4か月ぶりのプラスとなった。3月はアクセサリなどに一部好調な動きがみられた身の回り品以外は、すべての商品でマイナスとなった。なお、日本百貨店協会によると、大阪地区の4月の売上高は、閉店セールの影響もあり、前年同月比で2.3%の増となっている。

スーパーは、3月にスプリングコートなどに一部好調な動きがみられた婦人・子供服・洋品が、5か月ぶりに前年を上回ったが、1月に主力の飲食料品がBSEや鳥インフルエンザの影響などもあって前年を下回るなど、全体でみても11月以降5か月連続で前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「前年同月比で来客数も売上もかなり増えている。1人当たりの客単価は下がっているものの、それ以上に来客数が多かったため、売上も伸びる結果となった(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

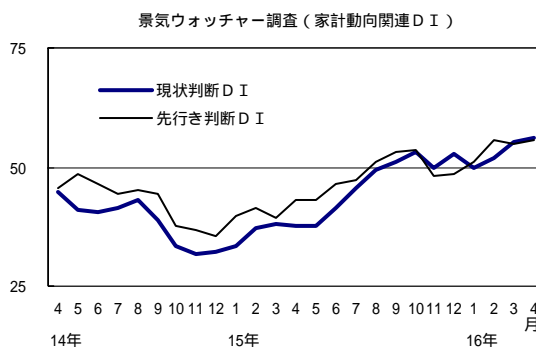
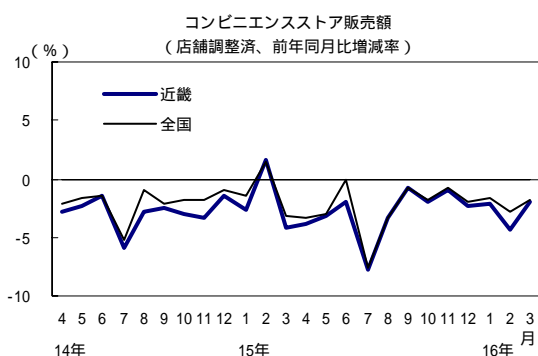


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	2.9	2.6	2.7	2.0
百貨店	2.5	0.3	1.7	0.8
スーパー	3.2	4.4	3.6	3.0
コンビニ	3.0	4.1	1.8	2.8
景気ウォッチャー	38.9	48.6	51.9	52.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。

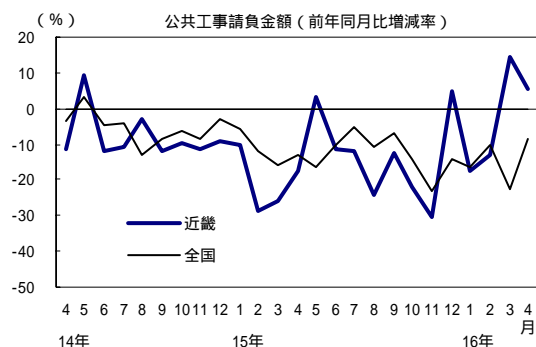
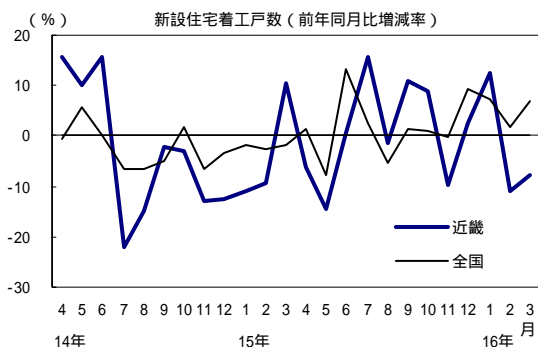
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲、給与、貸家がいずれも前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

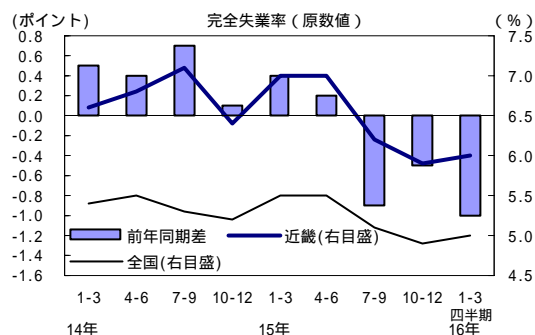
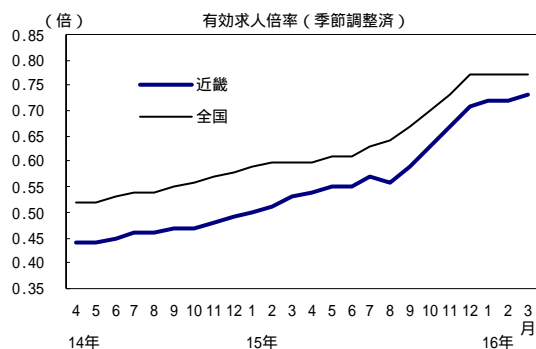


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月調査）[雇用関連（現状判断）]

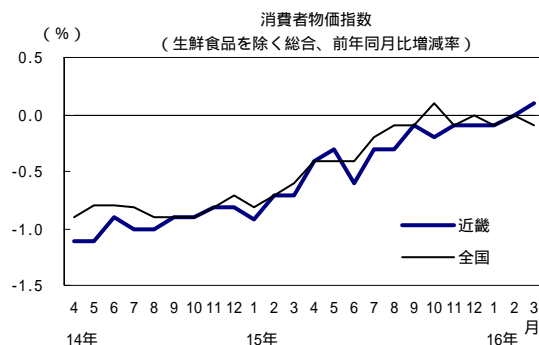
「新年度を迎え、求人数に落ち込みが発生することが予想されたが、新規採用、紹介予定派遣ともに緩やかに増加している（人材派遣会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数 (前年比)	1,000 7.6	899 17.1	901 12.6	924 7.5	300 11.2
負債総額 (前年比)	6,117 9.5	7,630 45.5	6,362 10.6	6,071 22.2	1,423 49.7



景気ウォッチャー調査（4月調査）[合計D I（特徴的な判断理由）]

<現状>

・花見等の観光客も増えるなかで、高額な土産を買う客も見受けられたほか、レンタルボート等を惜しみなく利用する客も増えてきた（観光型旅館）。

<先行き>

・近畿圏でも大型マンションや超高層マンションの計画が次々と発表されており、4～5月期は若干計画の先延ばしが見受けられたが、夏までにはかなりの計画が発表されており、供給量の増加によるマーケットの活性化が期待できる（その他住宅〔情報誌〕）。

景気ウォッチャー調査（合計D I）

